

入選

どこから来たのおばあちゃん

栃木県 太平中央小学校

五年 大橋 寧音

4月の雨の日のこと。家の前の坂道に、中学生の自転車が2台、置いたままになっていることに、私の母が気づきました。しばらくたっても置いたままだったので、心配した母は、自転車のところまで様子を見に行くことにしました。私と妹もいっしょについていきました。

すると、中学生の一人が雨でぬれた小さなおばあちゃんを支え、もう一人がおばあちゃんの自転車をおして坂をのぼってきました。母が、

「どうしたの、何かあったの？」

と聞くと、中学生は、

「おばあちゃんが、自転車をおしているのが大変そうだったので、手伝っていました。」

と答えました。母は、中学生の帰りが遅くなってしまうことを心配し、

「あとは、だいじょうぶだよ。」

と中学生に帰るように声をかけました。中学生は母に頭を下げ、帰っていきました。

私と妹はその間、歩道のはじにおばあちゃんに座ってもらい、おばあちゃんに使ってもらおうと家からカサとタオルを持ってきました。

「どうぞ使ってください。」

と差し出しましたが、おばあちゃんは、

「おねえちゃん、だいじょうぶだよ。ありがとう。」

と言って遠りよしていたので、妹といっしょにおばあちゃんがぬれないように、後ろからカサをさしてあげることにしました。するとおばあちゃんは小さな声で、

「家に帰るところだったのに、道がわからなくなっちゃったの。あっちに行けば着くと思うのだけど。早く帰らないと、怒られちゃう。」

と何度も言い、そのたびに自転車をおして帰ろうとしていました。そのようすを見た母は、きっと道に迷っているのだと思い、おばあちゃんの名前や生年月日、住所、電話番号を聞いてみました。しかし、おばあちゃんのはっきりと答えられなかったので、母は警察に連絡し、いっしょに待つことにしました。警察が来るのを待っている間、私は、

「寒くないですか。いっしょに待っていきましょうね。」

と、帰りたいそうにしているおばあちゃんに声をかけ続けました。

しばらくして、警察の人がやってきて、おばあちゃんを家まで送ってくれることになりました。私は、おばあちゃんが無事に家に帰れるとわかると安心し、ほっとしました。おばあちゃんは私にニコニコしながら手をふってくれました。本当によかったなと思いました。

中学生が助けたことから始まった今回のできごとから、自分にできることは小さなことでも、家族や地域の人たちと力をあわせることで大きな力となることを知りました。

困っている人を見かけたら声をかけ、自分にできることを考え、必要があれば周囲に助けを求めながら、いっしょに取り組めたらと思います。